

J-クレジット制度
排出削減プロジェクト・
森林管理プロジェクト
検証報告書

プロジェクトの名称：伊賀の里モクモク手づくりファームにおける
木質バイオマス加温機導入による CO2 削減プロジェクト

| | |
|-------|-------------------|
| 検証機関名 | ビューローベリタスジャパン株式会社 |
|-------|-------------------|

発行日 2015年11月11日

1 検証機関の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

※ 「判断の根拠」に関する項目については、根拠としたモニタリング報告書等の章番号、該当頁等を記載するとともにその妥当性について記載すること。(以下、本文書を通じて同様)

| | |
|--------------------|---|
| 機関名称 | ビューローベリタスジャパン株式会社 |
| プロジェクトに関係する者との利害抵触 | <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし |
| 判断の根拠 | プロジェクト関係者に対する利害関係がないことを、契約レビュー時にチェックシートで確認を行っている。 担当審査員に対しては、検証業務の依頼時に、利害相反がないことを確認している。 |

2 プロジェクト実施者の情報

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

| | |
|--|--|
| プロジェクト代表実施者 ※プログラム型プロジェクトの場合、「プログラム型運営・管理者」を記載すること。 | 株式会社伊賀の里モクモク手づくりファーム |
| プロジェクト実施者（代表者以外） ※プログラム型プロジェクトの場合、「削減活動の実施者」を記載すること。 | なし |
| 類似制度における認証の有無 ※今回認証を申請する期間と同一の期間において、同一のプロジェクトに基づく認証を他の類似制度によって受けているか | <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし |

3 検証結果（総括）

※ 本項目は、J-クレジット制度認証委員会資料として使用されます。

| | | |
|---|---|---|
| プロジェクト名、登録番号 | | 伊賀の里モクモク手づくりファームにおける 木質バイオマス加温機導入による CO2 削減プロジェクト (登録番号： 21) |
| 適用方法論 | 方法論番号 | EN-R-001 Ver.1.0 |
| | 方法論名称 | バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替 |
| 今回認証を申請する期間 ※実施要綱に定められた認証対象期間内に設定されていることを確認して記載すること。 | | 2014年2月26日 ～ 2015年6月4日 ■プロジェクト登録時に定めた認証対象期間内でありかつ認証済の期間外である □上記期間以外 |
| 過去の認証状況 ※過去に排出削減量の認証を受けている場合には、各期間と方法論ごとの認証されたトン数を記載すること。認証回数増加に併せて適宜行を追加して記載すること。 | 第1回 | 年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2) |
| | 第2回 | 年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2) |
| | 第3回 | 年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2) |
| | 第4回 | 年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2) |
| | 第5回 | 年 月 日 ～ 年 月 日 (t-CO2) |
| 排出削減・吸収量 また、複数方法論の場合は、プロジェクトとしての合計値を記載すること。 | 今回認証を申請する期間の合計値（実績値） | 38 t-CO2 |
| | 今回認証を申請する期間のプロジェクト計画書における排出削減・吸収見込量 ※プロジェクト計画書における排出削減・吸収見 | (2013年度) 9 t-CO2 (2014年度) 43 t-CO2 (2015年度) 18 t-CO2 (6月4日まで) 計 70 t-CO2 |

| | | |
|--|---|--|
| | <p>込量の合計値を、今回認証を申請する期間で按分すること。</p> | |
| <p>省エネルギー量 ※省エネルギー等分野の方法論（方法論番号が EN-S で始まる方法論のうち廃棄物由来燃料を使用しないもの）を用いたプロジェクトの場合には、今回認証を申請する期間の省エネルギー量の実績値を記載すること。 また、複数方法論の場合は、プロジェクトとしての合計値を記載すること。</p> | | <p>該当なし</p> |
| <p>プロジェクト実施者と合意した検証の前提</p> | <p>検証の基準 ※適用した制度文書類のバージョンを記載すること</p> | <p>文書名：実施要綱 Ver.2.2 文書名：実施規程（プロジェクト実施者向け） Ver.2.1 文書名：実施規程（審査機関向け） Ver.1.1 文書名：モニタリング・算定規程 Ver.2.2 （排出削減プロジェクト用） 文書名：モニタリング・算定規程 Ver.1.0 （排出削減プロジェクト用別冊）</p> |
| | <p>目的 ※プロジェクトの実施によって、モニタリング報告書における排出削減量・吸収量が実際に生じたことの評価を行うことも目的に含めて記載すること</p> | <p>プロジェクト実施者が作成した J-クレジット制度に基づくモニタリング報告書に記載された情報が、各種実施規程に従い、又プロジェクト計画書に則り記載されているか、及び削減量の算定結果が正確であることについて、関連する証拠を客観的に収集・評価し、独立の立場から結論を表明すること。</p> |
| | <p>範囲 ※検証の範囲がプロジェクト計画書及びモニタリング報告書の範囲であることを記載すること</p> | <p>本プロジェクトの計画書およびモニタリング報告書に記載された、「伊賀の里モクモク手づくりファームにおける木質バイオマス加温機導入による CO2 削減プロジェクト」を検証の範囲とする。</p> |

| | | |
|---|---|--|
| | <p>保証水準の基準 ※検証の結論を意見として表明する際に採用した水準を記載すること</p> | <p>合理的保証</p> |
| <p>検証手続 ※現地審査の実施有無について記載すること。また、実施していない場合は、実施省略条件を満たしていることについて記載すること。 ※実際に実施した手続、スケジュールについて、サンプリング手法も含めて記載すること。</p> | | <p>■現地審査を実施した（2015年10月29日に訪問） □サンプリングで現地審査を実施した（ 年 月 日に訪問） □現地審査を実施していない （理由） □妥当性確認の審査も担当した。 □妥当性確認における実地審査時点でのプロジェクト計画が、原則として排出削減量に関わらない事項を除き修正されることなく、プロジェクト登録されている。 □前回の実地審査から1年以内である。 （前回実地審査： 年 月 日に実施）</p> |
| <p>修正・指摘事項及び解決方法 ※4における結果を総括し、排出削減量・吸収量に影響を与える可能性のある、主な誤り、指摘事項について記載すること。</p> | | <p>(1) 方法論に規定された、プロジェクト排出量の内、プロジェクト実施後の追加設備における電力使用量の算定根拠が不正確であった。算定根拠となる当該設備の運転日数、電気容量と台数のエビデンスを現地審査で確認した。プロジェクト実施者に修正を依頼し、適正に修正されたことを確認し、訂正された排出削減量を検証した。 (2) モニタリング報告書の別紙 B.2 の(2)に記載された燃料のデフォルト値の一部に高位発熱量基準の数値が登録されていた。方法論では高位発熱量か低位発熱量かいずれかに統一することが求められており、他の重要な係数（例えば、木質バイオマスの単位発熱量）に合わせて低位発熱量基準に統一し、当該係数の訂正が必要であった。プロジェクト実施者に修正を依頼し、修正されたことを確認した。なお当該係数の訂正により排出量算定計算には直接影響しないことを確認している。</p> |
| <p>検証結果</p> | <p>検証結果</p> | <p>■無限定適正 □不適正 □意見不表明</p> |
| | <p>意見・結論 ※4における結果を総括し、検証結果における意見の理由を記載すること。</p> | <p>プロジェクト実施者が作成したモニタリング報告書は、プロジェクト事業の要件を満たしており、モニタリング報告書の誤りの合計値が重要性の基準値（5%）未満であることが確認された。従って全ての重要な点において適正であると認める。</p> |